

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業  
 廃止措置研究・人材育成等強化プログラム  
 中間評価総合所見

評価の概略			
研究開発課題名: 廃止措置工学高度人材育成と基盤研究の深化 事業代表者(研究機関名): 小原 徹(東京工業大学) 再委託先研究責任者(研究機関名): 高木 直行(東京都市大) 再委託先研究責任者(研究機関名): 新井 剛(芝浦工業大学) 再委託先研究責任者(研究機関名): 浅沼 徳子(東海大学) 再委託先研究責任者(研究機関名): 川嶋 健嗣(東京医科歯科大学) 研究期間: 平成26年度～平成30年度(5年計画)			
項目	要 約		
1. 事業の概要	東京電力福島第一原子力発電所の廃止措置に必要な不可欠な最新技術と原子核工学の専門知識を有し、デブリ材料工学、デブリ化学及びシビアアクシデント後の遠隔操作技術の体験を通して深く理解した人材を継続的に育成するため、東京工業大学に廃止措置工学を専門とするカリキュラムを設置する。同時にこれまでに培われてきた東京工業大学及び連携機関研究者の知見に立脚し、廃止措置上重要な課題である難分析核種の分析、汚染材木等の除染法の開発、汚染土壌・焼却灰処理技術、Cs、Sr同時回収固化技術、シビアアクシデント後の遠隔計測技術、デブリ取出し時の再臨界防止技術及びメルトダウン炉心の臨界事故解析とその対策技術に関する基盤的研究を推進し、廃止措置に反映することにより、東京電力福島第一原子力発電所の事故収束に貢献することを目標とする。人材育成と研究の推進に当たっては、廃止措置機関、電力企業、関連企業と十分な連携を維持しながら進め、これらの企業等が学生のキャリアパスとなるように指導する。		
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50px;">A</td> <td>               体系化されたカリキュラム、継続性を意識したプログラムが組み立てられており、計画されている教育プログラム等は着実に実施され、成果が期待できる。事故によりサイト内外に放出された核種の分析技術、汚染木材・伐採木等の除染技術、汚染土壌・焼却灰処理技術、Cs、Sr回収技術等他にない重要な位置付けの多様な基盤技術に取り組んでおり成果が見込まれる。                 S) 期待以上の成果が見込め継続するべきである                A) 予定通りの成果が見込め継続するべきである。                B) ほぼ期待通りの成果が見込め継続するべきであるが、計画の一部見直しが必要である。                C) 成果が見込めない部分があり、計画を見直し継続するべきである。                D) 成果がほとんど見込めず中止すべきである。             </td> </tr> </table>	A	体系化されたカリキュラム、継続性を意識したプログラムが組み立てられており、計画されている教育プログラム等は着実に実施され、成果が期待できる。事故によりサイト内外に放出された核種の分析技術、汚染木材・伐採木等の除染技術、汚染土壌・焼却灰処理技術、Cs、Sr回収技術等他にない重要な位置付けの多様な基盤技術に取り組んでおり成果が見込まれる。  S) 期待以上の成果が見込め継続するべきである A) 予定通りの成果が見込め継続するべきである。 B) ほぼ期待通りの成果が見込め継続するべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C) 成果が見込めない部分があり、計画を見直し継続するべきである。 D) 成果がほとんど見込めず中止すべきである。
A	体系化されたカリキュラム、継続性を意識したプログラムが組み立てられており、計画されている教育プログラム等は着実に実施され、成果が期待できる。事故によりサイト内外に放出された核種の分析技術、汚染木材・伐採木等の除染技術、汚染土壌・焼却灰処理技術、Cs、Sr回収技術等他にない重要な位置付けの多様な基盤技術に取り組んでおり成果が見込まれる。  S) 期待以上の成果が見込め継続するべきである A) 予定通りの成果が見込め継続するべきである。 B) ほぼ期待通りの成果が見込め継続するべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C) 成果が見込めない部分があり、計画を見直し継続するべきである。 D) 成果がほとんど見込めず中止すべきである。		